

台風接近の雨のなか、植樹を急ぐ

「共生の森」 第3回植樹

日遊協20周年記念
共生の森

深谷会長「COP10でも里山の大切さ」

近も、2日かけて250本



ていねいな植え方の見本をみせるサポータークラブのメンバー

子どもたちに自然の大切さを知ってもらうため、08年11月にスタートした日遊協の里山づくり10年計画「共生の森」(埼玉県嵐山町花見台地区)事業が3年目に入った。第3回の植林日10月30日は、台風14号接近の影響で未明から激しい雨が降り続き、会員家族らを招待して現地で行なうはずだった植林イベントは中止された。ただ、同日の雨天は予測されていたため、一部の苗は前日の29日に日遊協ポ



早朝から作業をしたボランティア隊を中心としたメンバー

「共生の森」とは

日遊協が2008年に埼玉県と締結した「埼玉県森林(もり)づくり協定」に基づき、嵐山町花見台地区の町有地約5.5ヘクタールを借り、5年かけて段階的に約1000本の苗木を植林する。植林後は埼玉県林業職員などの指導の下、日遊協ボランティア派遣隊を中心に間伐や下草刈りなどの手入れを続け、10年後には木立が整然として採光が行き届いた森に育て上げる。

ランティア派遣隊（日遊協会員企業社員の有志で組織）の手で植えられ、30日朝も雨が降りしきる中で残りが予定通り植えられた。今回植えられた苗木はエノキ、カツラ、オオモミジ、ヤマグリ、ナツツバキなど250本。深谷友尋日遊協会長も30日朝、現場に駆け付けて鋤を入れた。



深谷会長もひと汗かいて植樹

台風接



前日に、雨を予測して、シートを貼るなど、準備を続けた

絵手紙にも初めて挑戦

絵手紙づくりは11月1日から2

月末まで日遊協が作品募集中の「第1回パチンコ・パチスロ『エッセー・絵手紙』コンクール」に

ちなんだもの。絵手紙は、はがきの裏面に絵具や色鉛筆を使い、絵に短い文や詩を添えた手紙の一種。パソコンや電子メール全盛の昨今、手作りの温かさで人気が出ている。

会場では、大人も子供も市販のはがき大（縦15cm×横10cm）に切られた用紙を使って作品作りに挑戦、素朴で味のある絵手紙が出来上がっていった。作品のいくつかは実際に応募作品として受け付けた。

（「第1回パチンコ・パチスロ『エッセー・絵手紙』コンクール」の応募要項は15ページに）

森のシチューなど豪華に

昼食のメイン料理は肉、野菜、キノコを豪華に煮込んだ特製・共生の森シチュー。激辛、中辛、普通味の3種類ある。29日夜に下準備をし、30日朝8時から大鍋3つで煮込んでいた。ほかにスペアリブ、串焼き、焼そば、炊き込みご飯などが大皿に山盛りで出され、親子連れがおいしそうにほおぼっていた。昼食後、再び森の工作教室、竹鉄砲遊びに戻る子供たちもいた。阿部恭久副会長、白石良二ボランティア派遣隊総隊長が中締め挨拶をし、午後1時にスケジュールを終了、参加者全員はキャベツ、ニンジン、クリなどのおみやげを手解散した。

「共生の森」事業は社会貢献・環境対策委員会が中心となって推進し、今年度は春以降、同委員会とボランティア派遣隊がたびたび下草刈りに出動した。29、30日は同委員会と派遣隊を中心に、他の委員会メンバー、会員企業社員の有志が、シャトルバス添乗員、駅や駐車場誘導班、受付、警備、植林・イベント運営、料理班、工作・竹鉄砲・絵手紙の世話係、救護班などの裏方で活躍した。

子供達は工作や竹鉄砲

午前10時半、管理センター講堂で深谷会長が、「日遊協では、未来を担う子供たちのために里山を残

現場の森で出来なかつたイベントは、森に近い花見台工業団地管理センター講堂で行なわれた。大型バス2台が会員や後援団体からの参加者たちを東武東上線武蔵嵐山駅から同センターへピストン輸送した。朝からの雨にもかかわらず親子連れが目立ち、計約160人が参加した。このうち子どもは参加は30人にのぼった。雨が降っていないければ、植林の後、森でビンゴゲーム（散策しながらの宝探し）が予定されていただけに、子どもたちも主催者側も残念そうだった。

そうしてしています。ちょうど名古屋市中で開かれていたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）でも、里山の重要さが発信されて

いました。今日はいよいよの雨ですが、これにめげることなく、自然とともに生きることの大切さを考える機会にしてください」とあいさつした。昼食までの間に参加者たちが楽しんだのは森の工作教室、竹鉄砲遊び、絵手紙づくり。

森の工作教室では、子供たちが枝をスライスした小片を組み合わせて人の顔や動物や人形などをつかった。竹鉄砲遊びでは子どもたちが水で湿らせて丸めた紙の弾をペットボトルの的にポン、ポンと撃ち、命中させると見物の大人から「おっ、当たった当たった」と声がかかった。

盛り沢山の料理をまえに食欲旺盛だ



「共生の森」 第3回植樹

大人でも「難しい」絵手紙



できあがった作品はなかなかの出来栄え



自分でつくった
竹鉄砲を試射した



パパと一緒に、工作に熱中した

絵手紙に時間の経つのも忘れて描いた



親子で、友達と、チャレンジ

二年続けて雨にたたられが
親子連れを中心に、
工作教室、絵手紙、竹鉄砲を楽しんだ

▽宮島幸希くん(8)は、ヒノキの小さな輪切りを使った工作に夢中。母の照代さんが、ボンドが完全に接着するまで、作品を押さえながら「雨降らず人がいるんですね」と悪天候を残念がる。かたわらで、来年は中学の悠花ちゃん(11)が「去年植えたのを見にきたんだけど残念です」とちょっと元気がない。でも、肉野菜スープが温かいお昼ご飯のときは、お父さんの宏文さん(株藤商事)を囲んで元気いっぱいだった。▽篠原潤さん(株安田屋)一家は5人家族。翔くん(11)、彩音ちゃん(9)は3回目の植樹参加。彩純ちゃん(6)も絵手紙に一所懸命取り組み、スタンプやパステルを駆使している。お母さんの昌代さんが「絵を描いて、文字も書くのよ」と励ました。▽南世蘭ちゃん(5)は、お母さんの留珠さんが「普段、お絵かきが結構好きで、絵の具を指につけたりして描いたりしてます」という。小さな手をせっせと動かしながら「楽しい」とかわいい笑顔で作業を続けた。▽秋元敦さん(株千歳観光)は「雨でしたが、いろいろ準備されていて楽しかったですよ」といいながら、工作に夢中になっている紬希ちゃん(4)の世話をする。紬希ちゃんは「これはアンパーマン、これはカスタネット」とひとりでお喋りしながら次々に、なんと16個の作品を完成させてしまった。▽トリックスターズエリア(有)の新入社員、宮崎好美さん、石戸谷歩さんは朝一番で来て植樹することもできた。絵手紙にチャレンジして、好美さんは「画用紙ならいいけど、小さい葉書きはやりにくい」ととまどい、歩さんも「コンクールに応募することになったけど」と自信なさげだ。それでも、帰りがけにお土産の野菜をいっぱいもらって、2人とも笑顔だった。



出来上がった絵手紙を掲示



自分が作った作品をかかけて記念写真をハチリ



激辛、中辛、普通と3種類用意されたナベ

共生の森・ボランティア派遣隊参加メンバー (順不同、敬称略)

総責任者・知念安光(株安田屋)▽ボランティア総隊長・白石良二(株千歳観光)▽整備隊長・有川裕之(ジービーエム株)▽同副隊長・薛博夫(富國物産株)▽岡林克彦(ゲンダイエージェンシー株)▽ボランティア隊長・横山樹(株千歳観光)▽同副隊長・茂木欣人(ピーアークホールディングス株)▽同・松井公司(東和産業株)

《隊員》越阪部力郎、江崎弘一、津下直輝、井上象平(ジャパンネットワークシステム株)▽手嶋一仁、飯田岳、石井琴大(フシミコーポレーション株)▽峰岸周、堀江雄一、杉岡武彦、野口祐司、小笠原浩美、山内伸、阿部恭久(サンキョー株)▽井上裕太、安藤顕史、中原慶太(株SANKYO)▽篠崎大、向後衛、田村美保、深谷直毅、宇田恭子(株ヒノックス)▽宇田川誠、曾根秀樹、内藤修(株ボストーン商会)▽菊池哲也、馬宮正樹(東和産業株)▽三村正一、小祝隆、安部一海(株平和)▽立岩新一、山口祐一郎(愛和食品株)▽六角明、山下晃、安倍一(株安田屋)▽松尾修(株ニューギン)▽大木慎一、土井正行(株千歳観光)▽守哲哉、萬道真介(株森創)▽今野裕也、萩原尚太、森田直樹、岩田雅伸、今川剛(株ジョイコシステムズ)▽荒川維久、天野雅行、石戸谷歩、宮崎好美、小谷大裕、正木敏(トリックスターズエリア有)▽市川正芳、茅場永守、須田芳浩、野瀬雄平(ピーアークホールディングス株)▽島村祐子、重松寛子、石井浩樹(株マルハン)▽近藤博寿、前川健(株エンビズ総研)▽福山裕治(株フェイスグループ)▽薛博仁、原秀次、橋本真治、山口浩司、小野好恵、小針美津子(富國物産株)▽三谷泰史(株中京遊技)▽渡辺幸男(株三洋物産)▽西岡隆昌(セーラー万年筆株)▽天野泰信(株エコフレンドリー)▽岩戸弘二(ジービーエム株)▽湯川和彦(株山水)▽相田幸一(オムロンアミューズメント株)



お土産の野菜もたっぷり用意された